

中日ニュース

第二二七号 内

容

PTA

高橋三三郎

33.5.23

一、アジアの若人つざう

アジア大会も真近の五月十四日、東京では国際オリンピック委員会(IOC)総会が天皇陛下をお迎えして開かれました。オリンピック讃歌の大合唱などで盛り上った雰囲気はIOC委員もすっかり感激。一方アジア大会の選手団も、殆んど揃った選手村の東京第一ホテル(男子)や、プリンスホテル(女子)は大賑い。ロビイや食堂ではさまざまな国の選手達がテーブルをかこんで、カクコト、混りて話しあうほほえましい風景もみられます。銀座通りや、百貨店の飾りもアジア大会一色。選手は連日激しいトレーニングをつけ、国立競技場では予行演習が繰り返されています。

一、週間話題

1 インカのミイラ

今からおよそ一〇〇〇年前、南米ペルーの山中で栄えたインカ帝国のミイラが、ペルー政府から届けられ、東大アンデス調査団によつて解剖されました。このミイラは地下四メートルの土中から発掘されたものですが、美しいインカ織の布で幾重にも包まれています。ミイラは一〇〇〇年前の姿そのまま、ひざを立てて座つた姿で出てきましたが、アゴの骨の老化からみて四十才以上の男と推定されました。ミイラが完全な姿でとり出されたことは学術的にも貴重な収獲だと言われています。

2 日本にもパゴダ

門司の港を見下す丘の上にこのほど金色に輝くパゴダが完成しました。これは日緬親善のためにビルマ政府と地元が四千万円の費用で建立したのですが、ビルマから派遣された五人のお坊さんが念仏三昧の生活をしています。南方仏教には二七に及ぶ戒律があつてきびしい修道の明け暮れですが、この五人のお坊さんたちは布教を通じて日緬の親善につとめたいと言っています。

カメラ・ルポ

一、売春Gメン

夜の巷から赤い灯が消えて二ヶ月。深く根をおろした売春は手を替え、品を替えて町の片隅に今なお暗躍しています。これを見張る取締りの刑事さんたちは、人眼のつかない路地裏に集り証拠集めの情報や、張込みなど眼を光らせてヤツキの捜査。一方警視庁に設けられた売春対策本部ではすでに二百九十九件、三百五名を検挙、ブランクリストも日毎に多くなりました。ところが連日連夜の張込みに刑事さんたちはすっかり疲労コンバイ。僅かの休みに夢を結ぶこともあり。やがて夕暮れ、異常な緊張につつまれる検挙前の一とき。こうしてあやしい旅館や街娼などを一斉に手入れしましたが、この道では海千山千のツワモノを相手にして刑事さんたちも容易ならざる苦勞のようです。そして今宵も、地下に潜つた売春を追つて、取締のきびしい追及がつけられていま

製作配給 東京中日新聞、中部日本ニュース映画社